

○副議長（池田憲彦君） 八番柏佑賢君。

〔八番 柏 佑賢君登壇〕

○八番（柏 佑賢君） 自由民主党・県民会議の柏佑賢です。議長のお許しをいただきましたので、本日最後の一般質問、大綱三点について質問させていただきます。

まず初めに、大綱一点目、県の観光振興への取組についてお尋ねいたします。

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行拡大から三年が経過しようとしている現在でも、国内では、既に第八波の到来もうかがわれる感染者数の急増など、完全な終わりが見通せない状況にあります。県民が安心して暮らせるよう、一日でも早い収束を願うばかりであります。この間、知事をはじめ県当局の皆様には、感染症対策、医療体制の確保、ワクチン接種のみならず、飲食業や宿泊観光業に対する経営支援や需要喚起策などの経済対策を、間断なく矢継ぎ早に実施していただいております。心から敬意を表する次第であります。そこで、知事も常々お話しになっている感染症対策と経済活動の両立の観点から、裾野の広い観光産業の再生に向けた取組について、質問させていただきます。

宿泊業をはじめとする観光業界にとって、この三年間は、観光客や宿泊客が大幅に減少し、非常に厳しい経営状況が長期にわたって継続しております。特に、流行当初は、不要不急の外出制限によって、観光客数がほぼゼロに近い状況になったとも伺っております。感染症流行前には、過去最高の観光客の入込数や宿泊者数を記録しておりましたが、新型コロナウイルスの影響で、この間の宮城県の観光客入込数、宿泊観光客数及び観光消費額が、感染症流行前と比べてどの程度落ち込んだのか、お伺いいたします。

県では、十月から、第五期みやぎ観光戦略プランがスタートいたしました。感染症流行の中で先が見えず、四期プランを数度にわたって延長し、刻々と変化する状況に対応しながら、観光振興に当たってこられました。ようやく策定された新たなプランでは、感染症流行で大きく落ち込んだ観光需要の回復に向けた回復戦略と、今後の観光振興に向けた成長戦略で構成されており、令和六年度末までの二年半の計画期間の中で、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えながら、宮城の観光産業を将来に向けてしっかりとつないでいくための指針となるものと認識しているところであります。このプランのスタートが、ちょうど十月十一日にスタートした全国旅行支援や水際対策の緩和の時期と

重なったことは、宮城県の観光の再生に向けた大きな意味を持つのではないのでしょうか。現在、経営が非常に厳しい状況となっている観光事業者にとって、早くコロナ前に戻ってほしいということは、切実な願いであります。県として、大きく落ち込んだ観光需要について、この機会を捉え、どのような戦略でV字回復させていこうとしているのか、お伺いいたします。

さて、観光産業の基盤となる宿泊施設では、多くの従業員を抱え、多数の取引企業を有しており、また、周辺の観光施設への波及効果も高いなど、地域経済を支える裾野の広い産業であると言われております。県では、これまで、感染症の流行の状況を見据えながら、極めて厳しい宿泊・観光事業者の事業継続に向けた対策の一環として、様々な観光需要喚起策を実施してきました。また、現在実施している全国旅行支援については、報道にもあるように、販売と同時に売り切れる旅行会社も多数あるなど、全国的に多くの観光需要が創出されており、宮城県内も数多くの観光客でにぎわい、週末を中心に予約が取れない状況が続くなど、徐々に明るいニュースとなっております。先日三十日に観光庁が公表した十月の宿泊旅行統計によると、コロナ禍前五・八%増の四千二百十万人とのことでした。一方で、現在の事業は十二月下旬で終了となっており、長期にわたって需要が低迷してきた事業者にとっては、その先の対応に不安を覚えていることも事実であります。私自身、三年近く落ち込んだ宿泊・観光業者の経営をしっかりと支えるためには、年明け以降も継続した需要喚起策が必要であると考えておりましたが、先日、年明け以降も全国旅行支援の実施を継続するとの報道がありました。県としては、これまで取り組んできた需要喚起策の効果について、どのように評価をしているのか、また、年明け以降の需要喚起策については、どのような方針で取り組んでいくのか、お伺いいたします。

次に、観光・宿泊需要の喚起のためには、国内旅行者だけではなく、消費単価の高い海外からの観光客を受け入れる必要があります。国でも、十月十一日から水際対策が緩和され、全国的に外国人観光客が増えてきており、松島をはじめ県内でも、外国人旅行者を目的とする機会が増えてきました。更に、年明けには、延期されていた台湾からの定期便の再開という喜ばしい報道もありました。今まさに、我が県へのインバウンドの誘致は、円安の効果もある中、大きなチャンスであり、宿泊事業者などからの期待の声

も数多く寄せられているところでもあります。県としてのインバウンドに対するこれまでの取組と現状認識、今後の具体的な誘客の取組について伺います。

さて、観光需要の回復とともに、観光消費額を増加させていくことは、裾野の広い観光産業全体の経済回復に向けて重要であると認識しているところです。県では、六月補正で観光DX——デジタルトランスフォーメーションの観点から、観光施設等の混雑状況の可視化に取り組む事業を予算化しており、この趣旨は、混雑している施設の待ち時間を、比較的すいているほかの施設などへ誘導し、滞在時間の有効活用と観光消費額の増加を目指すものと聞いております。十月下旬に松島町で行われた国道四十五号の車両乗り入れを規制する社会実験とともに、この観光交通機能強化事業に取り組みましたと伺いましたが、具体的にどのようなことを実施し、どのような効果があったと分析されているのか、また、現在も継続されている取組の結果を踏まえて、今後どのように展開しようとお考えになっているのか、県のお考えをお聞かせください。

塩竈市街地や浦戸諸島を含む松島湾エリアでは、松島湾ダーランド構想に基づき、平成二十八年度から、広域連携による地域の観光産業の振興を目指して、地元三市三町と仙台・松島DMO、住民の方々が官民一体となって取り組まれ、松島湾の魅力を活用した周遊ツーリズムや、農業、漁業体験等の学習コンテンツなどによって、従来型の観光から将来を見据えた観光の取組が進められております。このたび、東松島市では、九月に国際的な認証団体グリーン・DESTINEーションズの持続可能な観光地トップ百選に県内で初めて選出されるなど、注目が集まっています。今後、県として、このエリアでどのように取り組んでいく考えなのかお伺いいたします。

次に、大綱二点目、塩釜地区の港湾整備と離島振興策についてお伺いいたします。

仙台塩釜港塩釜港区の港奥部にあります北浜防潮堤については、今年七月四日に塩竈市魚市場で開催された工事説明会に、地元の方々や天下議員、市議会議員の方々と一緒に出席させていただきました。説明会では、仙台地方振興事務所から、大型重機械が稼働するために必要な地盤補強工事の着手と、その後の防潮堤背後の地盤改良、防潮堤や公園の整備などを進め、早期完成に向け取り組んでいくとの説明がありました。私も現地に幾度となく足を運んでおり、地盤改良や公園の整備工事が進められている状況を確認しております。そこで伺いいたします。地震や台風などの自然災害が頻発する中

で、北浜防潮堤を一日も早く完成させる必要があると考えますが、工事の進捗状況と完成の見通しについてお伺いいたします。

次に、新型コロナウイルス感染症拡大による交流人口の減少、ガソリンや電気をはじめとするエネルギー価格や食料などの高騰、更に円安の影響もあり、私が住んでおります塩竈市内でも、多くの飲食店などが閉店を余儀なくされ、市街地は全体的に元気がなく、深刻な影響が出ています。これらを受け、塩竈市では今年四月に、「海と社（やしろ）に育まれる楽しい塩竈」を都市像として、今後十年間の市政運営の指針となる、第六次塩竈市長期総合計画を公表しました。この中では、観光の顔となる鹽竈神社や門前町地区、ベイエリアとマリングート地区などの魅力と回遊性の向上を図り、観光交流によるにぎわいづくりが掲げられております。また、塩釜港区には、整備中の北浜緑地公園や千賀の浦緑地、松島や離島を結ぶ観光船の玄関口であるマリングート塩釜をはじめ、鹽竈神社や塩釜水産物仲卸市場など、多くの観光資源があります。これら施設の特性を生かし、海辺空間の一体的な活用による、魅力的なベイエリアの創出につなげていく必要があると考えております。そこでお伺いいたします。塩釜港区を活性化させるためには、北浜緑地公園を含めた港奥部のにぎわいの創出が必要と考えますが、県のお考えをお聞かせください。

次に、松島湾内の最奥部にある塩釜港区は、天然の良港として、これまでも地域の経済や文化の発展に重要な役割を担ってきており、現在も、石油製品や冷凍水産品などを扱う小型貨物船が数多く入港しております。また、特別名勝松島の観光船の基地、浦戸諸島への連絡船の基地として、観光と生活を支える重要な役割を担っております。当塩釜港区内の航路・泊地については、東日本大震災の津波により、瓦礫や土砂等が堆積したことから、これまで航路啓開やしゅんせつ工事により水深を確保していただき、安全な船舶航行が行われてきたものと思っております。一方、先日、港湾利用者との意見交換や働く方から話を聞く機会があり、貞山地区周辺の航路や泊地の一部が水深マイナス七・五メートルより浅く、入港船舶の航行に支障を来すことがあるので、航路などのしゅんせつを行ってほしいと聞いていることから、塩釜港区に安心して船舶が入出港できるように、航路や泊地の水深維持が必要と考えますが、航路・泊地の水深維持に向けた現状と、今後のしゅんせつの見通しについて伺います。

次に、塩竈市浦戸諸島は、仙台藩の時代から、地理的条件により舟運の拠点港として栄えてきました。そんな浦戸諸島四島五地区を結ぶ唯一の交通機関が定期航路であります。その定期船が発着する係船岸壁のうち、朴島地区のみ浮棧橋が設置されていない状況であります。この朴島地区は、菜の花が見頃を迎える頃には多くの観光客が訪れ大変にぎわっており、今後の浦戸諸島全体のにぎわいの創出など離島振興策を考える上でも、利用者の安全確保は大変重要であります。定期船が発着する岸壁は、県土木部が管理する建設海岸であるとのことですが、現在、潮位から生じる岸壁との高低差により、定期船を利用する島民及び観光客の乗降時に影響が生じております。つきましては、島民の日常的な乗降をはじめ、観光客など利用者の乗降時における安全を確保する上でも、朴島地区にも一日も早く浮棧橋が設置されればと思います。かつて、十数年前に桂島石浜地区に浮棧橋が設置され、しかも屋根つきの棧橋で、住民の方々、特に年配者の方からは、潮の干満に関係なく船への乗降が楽になったと、大変喜ばれ感謝されております。何とぞ、知事の設置に向けた御英断を期待しておりますが、県のお考えをお聞かせください。

次に、国土交通省では、脱炭素社会の実現に向けて、二酸化炭素排出量の多くを占める発電所や鉄鋼などが立地する臨海部産業の拠点、エネルギーの大消費拠点となっている港湾において、温室効果ガス排出量を全体としてゼロにするカーボンニュートラルポートを形成することにより、二〇五〇年カーボンニュートラルの実現に貢献していくとされています。また、県では、今年から仙台塩釜港カーボンニュートラルポート協議会を立ち上げ、その中でカーボンニュートラルポート形成計画策定の検討が進められていると伺っております。九月の定例会の予算総括質疑でも質問いたしました。仙台塩釜港におけるカーボンニュートラルポート形成計画策定の進捗状況と、今後の見通しについてお聞かせください。

次に、大綱三点目、松島の交通社会実験について伺いたします。

松島の交通社会実験につきましては、前回の九月定例会において、地元の櫻井正人議員が質問されましたが、塩竈市をはじめ隣接する市町にとりましても、今後の観光振興施策を考える上で非常に関連がありますので、今回の実験結果及び今後の取組方針などについて、改めて質問させていただきます。去る十月二十八日金曜日から三十日曜

日の三日間、県や国、松島町、県警をはじめ、宮城県トラック協会、地元観光協会や商店会等で構成する松島町交通社会実験協議会が実施主体となり、交通社会実験が実施されました。内容は、各日午前十時から午後三時まで、松島海岸地区の国道四十五号のJ R松島海岸駅交差点から松島第一駐車場交差点までの約七百メートル区間で、大型車両の通行規制を行い、うち二百五十メートル区間は、緊急車両を除く全車両を通行規制し、車道をにぎわいの空間として開放し、オープンカフェやイベント等を開催するほか、松島町営駐車場等の周辺駐車場から松島海岸地区中心部まで、二次交通として循環シャトルバスを運行するものであります。私も、二十九日土曜日に、現地を見させていただきました。当日は、晴天の下、奥の細道の旅で松島を訪れた江戸期の俳聖松尾芭蕉の衣装を身につけた村井知事や、松島高校の松島武将隊と規制された車道を歩きましたが、これまでの松島海岸とは全く違った風景に、驚きと感動したことを今でも鮮明に覚えています。車道上では、設置された椅子で子供とくつろぐ家族連れや、七ヶ浜国際村で活動しているミュージカルグループのダンス、トヨタのラリーカーの展示、遊具を設置した子供広場で無邪気に遊ぶ子供の姿をはじめ、特に感動したのが、国道四十五号沿いにあるお土産屋さんに吊るしてある風鈴の音が、心地よく耳に入ってきたことです。国道四十五号は、重要物流道路に指定されている主要幹線道路ですので、大型車の通行が多いことは仕方ありませんが、この三日間、まさに松尾芭蕉が訪れた時代にタイムスリップし、松島の魅力を改めて実感することができました。今回の交通社会実験の実施に当たっては、国道四十五号の迂回路として、県道仙台松島線利府街道など周辺の県道・町道を設定しておりますが、一部報道によると、若干の渋滞は発生したものの、おおむね著しい渋滞は発生せず、通行規制に大きな混乱はなかったとありました。また、観光客からも、「いつもは車の騒音で人の声が聞き取りづらい場所だが、今日は非常に静か。大勢の人が楽しそうな顔でくつろいでいる」などと、好意的な意見が多くありました。その一方で、観光施設や飲食店、土産店など、周辺の複数業種の事業者が前週の同時期と比べた入込客数や売上げの減少を訴えており、因果関係は不明だが事業者の多くが、通行規制のため車での来訪が敬遠された可能性を指摘しています。交通社会実験の趣旨を否定する事業者は少ないものの、来年度に向けて改善を求める声が上がったとありました。私も現地に赴き、交通社会実験の現場を確認させていただきましたが、私として

は、今回の社会実験は成功だと思っております。今後、松島交通社会実験協議会において、社会実験の効果検証と課題把握を行うと思っておりますが、現時点で県が確認、整理している効果や課題について伺います。また、村井知事は、当日の記者会見で、今回の反省点を改善し、来年度以降も継続的に通行規制を実施したいと話されております。そして、櫻井公一松島町長も、「観光地として新たな取組の第一歩が踏み出せた。いずれは毎週末、歩行者天国になるように、町として働きかけたい」と先を見据えております。そこで、県では、来年度も交通社会実験を実施する予定と伺っておりますが、今後の継続的な実施に向けてどう取り組んでいくのか、その対応方針について伺いいたします。

今後、松島海岸地区の国道四十五号を継続的に通行規制するのであれば、重要物流道路や国管理国道のままでは難しいと思います。村井知事は、今後の継続的な通行規制の実施に向けては、「いずれは国道四十五号の付け替えを目指す」と話されました。加えて必要になるのが、国道四十五号の迂回路となる県道仙台松島線利府街道をはじめとする周辺道路の更なる機能強化です。特に、利府街道については、高城川付近の愛宕橋交差点をはじめ、ふだんから渋滞が発生しておりますし、松島海岸インターチェンジから松島町初原地区にかけては、車道や路肩の幅員が狭い箇所もあり、大型車両の円滑な通行に支障を来す可能性もあります。そこで、県として、国道四十五号の迂回路となる県道仙台松島線利府街道をはじめとする周辺道路の更なる機能強化に向けて、今後どう取り組むのかについて伺います。

一方で、今回の交通社会実験は、私の地元である塩竈市においても、大いに参考になると考えております。鹽竈神社の門前町エリアである県道塩釜吉岡線や国道四十五号沿いでは、昔ながらの建物が立ち並び、歴史と文化、風情を今に残す景観を有しておりますが、道路を含めた沿道には、観光客がゆっくり滞在できるベンチやあずまやなどの休憩スペースがありません。今後、鹽竈神社を訪れた観光客に安全で安心して門前町エリアを周遊していただくためには、道路空間を有効に活用した休憩スペースの設置や、沿道の商店等と連携したにぎわいづくりが必要であると、改めて認識したところであります。そこで、港奥部のにぎわい創出と併せ、鹽竈神社の門前町エリアにおいても、県道塩釜吉岡線、国道四十五号及び周辺市道を有効に活用しながら、観光客が安心して周遊できる環境整備やにぎわいの創出に向けて取り組んでいただきたいと思います。県

の見解をお聞かせください。

また、塩竈市においても、多くの観光客の方々が円滑に移動するためには、恒常的となつている渋滞の緩和対策が喫緊の課題となっております。そのため、広域的な高速道路網である三陸自動車道の多賀城インターチェンジと直接接続することができ、仙台市と塩竈市の両市街地を結ぶ主要な幹線道路となる都市計画道路玉川岩切線の整備が大変重要であると考えており、県では、令和二年度に策定した宮城の道づくり基本計画において、地域生活を支える道づくりとして、その整備を位置づけているところです。しかし、その整備に当たっては、既にある宅地等への影響が少なくないことから、現在、都市計画道路の見直しについて、塩竈市、多賀城市、利府町の二市一町で行っていると伺っております。今後、都市計画道路玉川岩切線についてどのように進めていくのか、県の見解をお聞かせください。

日本三景松島は、我が県を代表する観光地であります。新型コロナウイルス感染症の影響で観光客の入り込みが低迷しており、今回の交通社会実験は、観光客の回復と更なる拡大に向けて絶好のチャンスになったと思います。今回の取組については、松島町のみならず、松島への遊覧船が発着する塩竈市、天然の栈橋表松島の馬の背を新たな観光地としてPRに力を入れている利府町、多賀城創建千三百年を迎える多賀城市をはじめ、風光明媚な奥松島地区を抱える東松島市など、石巻圏域を含めた周辺市町も、その波及効果を期待しておりました。交通社会実験当日には、利府町がボンネットバスによる馬の背ツアー、東松島市が宮戸島遊覧船ツアーを実施したほか、塩竈市、多賀城市、七ヶ浜町、石巻市がPRブースを設置するなど、今後、日本三景松島を中心とした観光ツーリズムの構築に向けて、まさによい機会になったのではないのでしょうか。松島町をはじめ、周辺市町の広域的な周遊観光をより一層促進するためには、円滑な移動が重要になると考えております。これまでは、自動車による来訪、移動が中心となっておりますが、渋滞状況を踏まえれば、塩釜港を発着する遊覧船やJRなどを積極的に活用すべきです。塩釜から松島の遊覧船運賃は、片道千五百円、往復二千円と、往復運賃が割安なこと、観光栈橋前の駐車場を利用した松島めぐりも一味違うことから、様々な交通手段の選択肢があることを情報発信すべきと考えますが、今後、県としてどのように取り組んでいくのかをお伺いし、壇上からの一般質問とさせていただきます。御清聴ありが

とございました。

○副議長（池田憲彦君） 知事村井嘉浩君。

〔知事 村井嘉浩君登壇〕

○知事（村井嘉浩君） 柏佑賢議員の一般質問にお答えいたします。大綱三点ございました。

まず、大綱一点目、県の観光振興の取組についての御質問にお答えいたします。

初めに、観光需要回復に向けた取組についてのお尋ねにお答えいたします。

県では、今年十月から令和六年度までを計画期間とする第五期みやぎ観光戦略プランをスタートさせたところであり、まずは、新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ観光需要の早期回復に向けて、ワーケーションの受入れ促進や宿泊施設のビジネスモデル転換など、多様化する観光ニーズに対応した取組を、宿泊需要喚起策などとの相乗効果を図りながら実施することとしております。また、十月からの水際対策の緩和をインバウンド回復の好機と捉え、訪日意欲の高い台湾、韓国等の東アジアやタイなどを主要ターゲットに、東北観光推進機構や東北各県と連携しながら、旅行博覧会への出展や旅行会社等の招請など、誘致活動を一層強化することとしております。今後、需要回復後をにらんで、観光資源の他地域との差別化や高付加価値な観光コンテンツづくりを併せて進め、地域経済の好循環につながる観光振興を目指し、官民一体となって取り組んでまいります。

次に、インバウンドの現状認識と今後の取組についての御質問にお答えいたします。

県では、外国人観光客の誘致に当たり、新型コロナウイルス感染症に伴う渡航制限がある中でも、海外事務所や現地サポートデスクによる旅行会社訪問、SNSなどを活用した宮城のPRなど、本格的な再開を見据えた誘客活動を実施してまいりました。十月十一日に、個人旅行解禁やビザなし渡航の再開、入国者数上限の撤廃など、大幅に水際対策が緩和されたことから、日本を訪れる外国人観光客が増加してきており、県内の宿泊施設でも、台湾やタイなどの旅行会社からの問合せが寄せられていると伺っております。県といたしましては、円安のメリットや仙台空港への直行便再開の好機を最大限に活用しながら、これまでの取組に加え、東北観光推進機構や東北各県と連携した現地旅行博覧会出展、商談会参加などの直接的な誘客活動を一層強化してまいりたいと考え

ております。また、旅行を計画している方々に対する旅マエの旅行観光情報の提供や、日本を訪れている旅行者に対する旅ナカでの観光情報の発信、宮城を訪れて帰国した方々に対する旅アトのSNS投稿キャンペーンなど、観光DXを活用した取組も推進し、重層的な誘客に努めてまいります。

次に、大綱二点目、塩釜地区の港湾整備及び離島振興策についての御質問のうち、カーボンニュートラルポート形成計画策定についてのお尋ねにお答えいたします。

発電所や工場群が立地している港湾地域は、二酸化炭素排出量の約六割を占めていることから、脱炭素社会の実現のためには、港湾の果たす役割は非常に重要であると認識しております。このため、県では、今年六月に学識経験者や立地企業、関係団体などで構成する仙台塩釜港カーボンニュートラルポート協議会を設置し、カーボンニュートラルポート形成計画の策定を進めており、これまで二回の協議会を開催しております。現在、立地企業からのアンケート結果に基づき、仙台塩釜港全体の温室効果ガス排出量や水素等次世代エネルギー需要量の推計を行っているところであり、今後、温室効果ガスの削減計画や次世代エネルギーの受入れ環境の整備に係る基本的な方針などについて、検討を進めることとしております。県としては、引き続き立地企業や関係団体などと連携を図りながら、来年度内に当計画の策定を進めるとともに、水素等次世代エネルギーの受入れに必要な施設を次期港湾計画へ位置づけていくなど、二〇五〇年のカーボンニュートラルの実現に向け、積極的に取り組んでまいります。

次に、大綱三点目、松島の交通社会実験についての御質問にお答えいたします。

初めに、今後の継続的な実施に向けた対応方針についてのお尋ねにお答えいたします。

今回実施した交通社会実験については、日本三景松島の更なる魅力向上と、新型コロナウイルス感染症の影響により低迷した観光客の回復と更なる拡大を図る上で、大変意義のある取組であるものと認識しております。十月二十九日土曜日には、私も現地に赴き、歩行者天国となった国道四十五号において、散策を楽しむ親子連れや観光客の方々を目にし、改めて、来年度以降も継続して実施したいとの思いを強くしたところでございます。国道四十五号の継続的な通行規制の実施に当たっては、重要物流道路である道路機能を確保するため、迂回路となる県道仙台松島線をはじめとする周辺道路の安

全て円滑な交通環境の整備はもとより、地元飲食店、ホテル等の観光事業者や、地域にお住まいの方々の御理解と御協力が何よりも重要であると考えております。県としては、今後、迂回路の交通解析結果や、観光客及び観光事業者、地域住民等へのアンケート結果などを基に、今回実施した社会実験の効果検証や課題抽出を行い、来年度の交通社会実験の準備を進めるとともに、継続的な通行規制の実施に向けて、松島町交通社会実験協議会において検討してまいりたいと考えております。

次に、鹽竈神社の門前町エリアの周辺道路を有効に活用した、にぎわい創出に向けた取組についての御質問にお答えいたします。

陸奥国一之宮である鹽竈神社とともに歴史を刻んできた塩竈市の門前町エリアは、沿道沿いに老舗店舗等が立ち並ぶなど、我が県を代表する観光地であり、観光客が安全で安心して周遊できる環境整備やにぎわいの創出に向けた取組は、周辺市町との広域観光を促進する上でも、非常に効果があるものと認識しております。これまで県では、当該地区の県道塩釜吉岡線において、門前町に調和した電線の地中化や歩道照明灯などを設置したほか、塩竈市では、市道で石畳をイメージしたインターロッキング舗装を実施するなど、歴史と景観に配慮した道路整備を進めてきたところであり、県としては、門前町エリアの更なる魅力向上に向けて、にぎわいのある道路空間の構築を目的に創設されました歩行者利便増進道路制度、いわゆるほこみち制度を活用し、地域の方々との意見交換する場を設けながら、引き続き国や塩竈市と連携し、門前町にふさわしい道路空間づくりに取り組んでまいりたいと考えております。

私からは、以上でございます。

○副議長（池田憲彦君） 経済商工観光部長千葉隆政君。

〔経済商工観光部長 千葉隆政君登壇〕

○経済商工観光部長（千葉隆政君） 大綱一点目、県の観光振興の取組についての御質問のうち、観光客入込数等の落ち込みの状況についてのお尋ねにお答えいたします。

県の観光統計では、観光客入込数は、過去最高だった新型コロナウイルス感染症流行前の令和元年の六千七百九十六万人に対し、令和二年は三千九百四十五万人と大幅に落ち込み、昨年も、速報値で四千四百九十九万人と、令和元年の約七割にとどまっております。また、宿泊観光客数は、令和元年の九百八十九万人泊に対し、令和二年が五百

八十七万人泊、昨年が五百八十四万人泊と、令和元年比の約六割でありました。観光消費額は、令和元年の三千九百八十九億円に対し、令和二年が二千四百九十八億円、昨年が二千六百二十四億円と、令和元年に比べ大幅に縮小しております。なお、直近の状況として、宮城県ホテル旅館生活衛生同業組合の調べによる十月の県内の宿泊状況は、全国旅行支援の効果により、感染症流行前の水準まで回復しており、県といたしましては、引き続き国の支援策も活用しながら、観光需要の喚起に鋭意努めてまいります。

次に、宿泊需要喚起策の評価と今後の対応についての御質問にお答えいたします。

県では、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく落ち込んだ宿泊観光需要の回復を目的とし、これまで継続的に宿泊需要喚起策を実施してきたところであり、全国旅行支援前までの実績は、合計約百十三万人泊となり、宿泊観光事業者の事業継続に一定の効果があったものと評価しております。現在実施中の全国旅行支援では、これまでのところ、予約も含め約五十四万人泊の見込みとなっており、宿泊事業者からは、需要回復に向けた手応えと期待の声が寄せられております。依然として厳しい状況にある宿泊観光事業者の事業継続のためには、需要喚起策の切れ目ない実施が必要と考えており、これまでも、全国旅行支援の延長などを国に対し要望してまいりました。先日、国から年明け以降の観光需要喚起策について、割引率を二〇％、割引上限額を交通付商品五千円、その他の商品三千円とするなどの実施内容が発表されたところであり、県といたしましては、開始日等の詳細について積極的に情報収集に努めるなど、着実な事業実施に向けて準備を進めているところです。

次に、松島における混雑状況の可視化の取組についての御質問にお答えいたします。

県では、観光施設や周辺駐車場における混雑状況をウェブサイト上で情報発信することにより、近隣施設等への円滑な周遊観光を促し、地域内での観光消費額の向上につながる取組を進めており、松島においては、今回行われた交通社会実験の期間も含め、来年一月まで継続実施しております。具体的には、松島海岸エリアの県営駐車場や観光施設に九台のAIカメラと十台のセンサーを設置し、観光客がデジタルマップ上から混雑状況を把握できるようにしたほか、自動車以外の交通手段としてシャトルバスを設定するとともに、その時刻表やリアルタイムの運行状況をマップ上で表示するなど、域内移動の利便性向上を図っております。今回の社会実験期間中は、ウェブサイト閲覧数が

約四千回、シャトルバス利用者が約千人であったことなどを踏まえると、円滑な移動と利便性の向上に効果があったものと考えております。県といたしましては、今年度の実施内容を検証し、来年度以降の継続実施について、関係団体とともに検討してまいります。

次に、松島湾エリアにおける観光振興についての御質問にお答えいたします。

このたび、東松島市が持続可能な観光地トップ百選に選出されたことは、大変喜ばしく、今後の松島湾エリアの観光振興にも大いに寄与するものと期待しているところでもあります。県では、これまで、松島湾エリアの魅力を一層高めるため、地元三市三町や仙台・松島DMOと連携し、官民が一体となって、松島海岸地区のみならず、各地区の特徴を生かした松島湾エリア全体の観光資源の磨き上げと情報発信に取り組んでまいりました。これにより、東松島市や利府町における漁業体験メニューや、塩釜水産物仲卸市場でのマイ海鮮丼、浦戸諸島を船舶でめぐる湾内周遊ツアーリズムの造成など、各地区で新たな観光資源も生まれております。県といたしましては、日本三景に数えられる風光明媚な景観や瑞巖寺、鹽竈神社をはじめとする歴史文化など昔からの魅力に加え、新たに磨き上げられた観光資源を生かした教育旅行メニューの充実を図るなど、市町やDMO、関係者と連携しながら、松島湾エリアをより魅力的な観光地域とするよう取り組んでまいります。

次に、大綱三点目、松島の交通社会実験についての御質問のうち、松島地区への観光に関する交通アクセスについてのお尋ねにお答えいたします。

松島海岸を訪れる観光客の交通手段について、昨年度の観光客実態調査では、自動車を利用する方の割合が約六割、新幹線を含む鉄道の利用者が約四割となっております。現在、県では、市町や仙台・松島DMOと連携し、松島湾エリアにおける漁業体験メニューや、湾内をめぐる周遊ツアーリズムなど観光資源の磨き上げと、これらを活用した旅行商品の造成などに取り組んでおりますが、各地区への交通手段や公共交通機関等に関する情報提供が課題となっております。県といたしましては、JR東北本線や仙石線、塩釜から松島への移動手段としての観光遊覧船など、松島湾エリアにおける多様なアクセス手段の利便性について、デジタルによる情報発信を強化するなど、しっかりとPRしてまいりたいと考えております。

私からは、以上でございます。

○副議長（池田憲彦君） 土木部長千葉衛君。

〔土木部長 千葉 衛君登壇〕

○土木部長（千葉 衛君） 大綱二点目、塩釜地区の港湾整備及び離島振興策についての御質問のうち、北浜防潮堤整備の進捗状況等についてのお尋ねにお答えいたします。

北浜防潮堤の変状対策工事については、今年三月に応急対策工事が完了し、現在、恒久対策として、既設防潮堤背後の地盤改良を進めており、改良が完了した箇所から、順次、防潮堤を再整備することとしております。恒久対策については、極めて軟弱な地盤上での施工となるため、周辺住宅などに影響を及ぼさないよう、変位状況を確認しながら、慎重に工事を進める必要があることから、年度内の完成は厳しい状況となっております。県といたしましては、引き続き周辺の環境に十分配慮し工事を進めるとともに、地域の住民の方々に工事の進捗状況をお知らせしながら、一日も早い完成に向けてしっかりと取り組んでまいります。

次に、塩釜港区港奥部のにぎわいの創出についての御質問にお答えいたします。

塩竈市の中心市街地と隣接する港奥部は、松島定期観光船や離島航路が発着するマリンゲート塩釜を核とした観光・交流拠点であり、地域の活性化を図る上で重要な地区であると認識しております。このため、県では、平成二十五年に改訂した港湾計画において、港奥部を交流拠点ゾーンとして位置づけ、水面を活用したにぎわい空間を創出するため、親水緑地である北浜緑地公園などの整備を進めているところです。また、塩竈市では、今年四月に公表した第六次塩竈市長期総合計画において、港奥部を、北浜緑地公園とマリンゲート塩釜を一体的に活用し、海辺に親しむエリアとして魅力向上を図ることとしております。県といたしましては、塩竈市や関係団体等の御意見を十分伺うとともに、今後の仙台塩釜港の整備の在り方を検討する明日の仙台塩釜港を考える懇談会での議論を踏まえ、更なる港奥部のにぎわいの創出に向け、引き続き検討を進めてまいります。

次に、塩釜港区の航路・泊地の水深維持に係る現状と今後の見通しについての御質問にお答えいたします。

塩釜港区は、航路・泊地の一部において、入港する船舶に対応した水深が確保され

ていない箇所があることから、船舶の安全確保を図るためにも、航路・泊地の適正な維持管理が重要であると認識しております。このため、県では、定期的に水深の測量を行った上で、岸壁の使用頻度などを考慮し、優先順位をつけながらしゅんせつを実施しており、今年度から、貞山埠頭一号岸壁周辺のしゅんせつ工事に着手したところです。塩釜港区は、水産加工業をはじめ地域基幹産業などを支える重要な拠点であり、東北のエネルギー供給基地としての役割も担っていることから、県といたしましては、船舶が安全に安心して入港できるように、引き続き航路・泊地の水深維持に向け、計画的にしゅんせつを実施してまいります。

次に、朴島地区への浮棧橋の設置についての御質問にお答えいたします。

浦戸諸島の朴島地区においては、既存の防潮堤や護岸などの海岸保全施設が東日本大震災により甚大な被害を受けたことから、復旧工事を行い、昨年六月に完成したところです。御要望のありました浮棧橋の設置につきましては、当地区が建設海岸であることから、海岸保全施設として整備することは難しいと考えておりますが、利用者の安全を確保する上でも重要な施設であると認識していることから、県といたしましては、定期船を運航している塩竈市と十分連携を図りながら、設置に向けた事業手法などについて検討してまいります。

次に、大綱三点目、松島の交通社会実験についての御質問のうち、現時点で把握している効果や課題についてのお尋ねにお答えいたします。

県では、日本三景松島の更なる魅力向上に向けて、十月二十八日金曜日から三十日日曜日までの三日間、国や松島町、県警をはじめ多くの関係者の御協力の下、松島町交通社会実験を実施しました。当日は晴天にも恵まれ、多くの観光客が松島海岸を訪れるとともに、国道四十五号の迂回路においても著しい渋滞は発生しておらず、全体として大きな混乱もなく実験を終えることができたと考えております。現在、今回の実験の効果検証と課題抽出を進めており、迂回路の交通状況については、当日の交通量調査等の結果やETC二・〇のデータ等を活用し、周辺道路を含めた渋滞状況や通行経路等の分析を行っております。また、にぎわい創出の状況については、当日訪れた観光客へのアンケートのほか、今後、地元飲食店、ホテル等の観光事業者や宮城県トラック協会などの道路利用者、松島町民へのアンケートを行い、事業活動や日常生活への影響を把握す

ることとしております。県といたしましては、今年度末までに、こうした効果や課題の取りまとめを行い、改善点や関係者からの要望等を踏まえ、来年度の交通社会実験の具体的な内容について検討してまいります。

次に、国道四十五号の迂回路として想定される周辺道路の機能強化についての御質問にお答えいたします。

松島海岸地区を通過する国道四十五号は、重要物流道路に指定されるなど、我が県沿岸部の産業経済活動を支える大変重要な基幹道路であり、継続的な通行規制の実施に当たっては、迂回路となる周辺道路の機能強化が不可欠であると認識しております。特に、今回の交通社会実験において、主要な迂回路として設定した県道仙台松島線、通称利府街道は、高城川の愛宕橋交差点付近の渋滞が著しく、JR東北線のガード部は、通行制限高さが三・九メートルと低いため、特殊車両の通行に支障を来すほか、松島町桜渡戸地区から初原地区にかけては、一部車道や路肩が狭いことから、大型車の安全で円滑な交通確保が課題となっております。県といたしましては、今回の社会実験における迂回路の交通状況も踏まえながら、国道四十五号の代替機能を担う県道仙台松島線をはじめとする周辺道路の機能強化について、引き続き国や松島町、利府町と連携しながら検討してまいります。

次に、都市計画道路玉川岩切線についての御質問にお答えいたします。

都市計画道路玉川岩切線は、JR東北本線塩釜駅と仙台市を結び、仙塩広域都市計画区域において東西軸を形成する、全長約四・五キロメートルの主要な幹線道路であります。このうち、仙台市・多賀城市境から多賀城市浮島に至る約三キロメートルは整備が完了しておりますが、既存市街地を通過する塩釜駅までの約一・五キロメートル区間は未整備となっております。現在、仙塩東部地区の塩竈市、多賀城市、利府町では、当該未整備区間を含め、長期未着手となっている都市計画道路の見直しを行っており、県が実施した仙台都市圏パーソントリップ調査の結果を基に、将来の交通状況の把握とともに、既存市街地に対する影響や都市計画道路整備後の沿道利用など、地域が抱える課題への対応について検討を進めているところです。県といたしましては、引き続き、二市一町が行う都市計画道路の見直しに積極的に参画し、地域が考える将来のまちづくりの在り方を十分踏まえながら、にぎわいと活力にあふれた、誰もが暮らしやすいまちづ

くりの実現に向け、未整備区間の早期事業化について検討を進めてまいります。

以上でございます。

○副議長（池田憲彦君） 八番柏佑賢君。

○八番（柏 佑賢君） 御答弁ありがとうございます。非常に前向きな答弁もあつたかなと思います。ただ、北浜緑地公園は、新しい住宅地も今、もう建設中でありますので、やはりこの完成は、一日も早いとはいえ、二度とこのようなことがないように、しっかりと工事を進めていただきたいなと思っております。また、村井知事は、他県に先んじて新たな仕組みを取り入れていくということで、二月の河北新報に載っております。今後、第二のふるさと宮城のために、十年、二十年先を見据えて、県政運営にしっかりと取り組んでいただきたいと願っておりますので、どうぞよろしく願いたします。私の一般質問を終わりにいたします。ありがとうございます。